

第2期栗東市総合戦略におけるKPIの一部見直しについて

1. 趣旨

第2期栗東市総合戦略の推進にあたっては、第1期と同様に、分野毎の数値目標(KPI)と併せ、具体的施策毎に重要業績評価指標(KPI)を設定し、年度毎に進行管理を行うことで、評価・改善を行う仕組み(PDCAサイクル)を回すこととしています。

このPDCAサイクルの中で、施策の効果の検証結果や社会情勢の変化等を考慮する中、必要に応じて内容の見直しを行うこととしており、今回KPIの一部について適正な値となるよう見直します。

2. 見直し内容

①分野【まち】「地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる」の重要業績評価指標(KPI)の一つである「健康寿命の延伸」の実績値・目標値を設定

〔重要業績評価指標(KPI)〕

健康寿命の延伸 ⇒ 【見直し後】 健康寿命(平均自立期間)の延伸

【国保データベース(KDB)システム】

男性：81.2歳(R1)→81.3歳(R5)

女性：84.0歳(R1)→84.1歳(R5)

《修正理由》

第8期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(計画期間：令和3年～令和5年)において、計画の基本方向の一つである「高齢者の健康と生きがいづくりの推進」の数値目標として、当該指標を設定したため。

②分野【ひと】「若い世代の出産・子育ての希望をかなえる」の重要業績評価指標(KPI)の一つである「不登校生徒在籍率(中学生)」の実績値・目標値を修正

〔重要業績評価指標(KPI)〕

不登校生徒在籍率（中学生） 【現行】 2.94%（H30）→2.64%（R5）
⇒ 【見直し後】 3.93%（H30）→3.63%（R5）

《修正理由》

現行実績は、毎年行われる文部科学省諸課題調査を基にして算出しているが、令和2年度から算出方法が変更となり、今後も令和2年度の算出方法を基に算出した不登校率をもとに取り組みを進めるため、平成30年度の実績値、令和5年度の目標値を令和2年度の算出方法で算出した値に変更する。

《算出方法の変更点》

※3ページに記載

3. 見直し時期

地方創生懇談会後を予定

「不登校生徒在籍率（中学生）」

《算出方法の変更点》

	長期欠席 A+B+C+D					生徒数 (人)	
	A+B +C+D	病気 A	経済的 理由B	不登校 C	その他 D		算出方法
H30	98	15	0	62	21	「その他」の複数 要因の中に「不登 校」を含む者も「そ の他」を含む。	2,112
R2	78	2	0	73	3	「その他」の複数 要因の中に「不登 校」を含むものは 「不登校」に計上 する。	2,194
	年間 30 日以上 の欠席	病 気 入 院・通院 などに よる欠席	経済的な 理由によ り欠席	不登校	欠席理由 が複数あ り、主た る理由が 明確でない		

- ・平成 30 年度の不登校数は、「不登校 C」のみで算出【 $62 \div \text{生徒数} (2,112 \text{ 人}) \times 100$ 】
した 2.94% を基準値としていた。
- ・令和 2 年度は算出方法が変わり、不登校数は「不登校 C」と「その他 D」要因の中の
「不登校疑い」を含むものとなったので、平成 30 年度と正確に比較することはでき
ない。
- ・令和 2 年度の算出方法で平成 30 年度数値を再計算した場合、「不登校 C」数と「その
他 D」要因を合算した数値から算出した不登校率【 $(C+D=83) \div \text{生徒数} (2,112 \text{ 人})$
 $\times 100$ 】は、3.93% が実績値となる。
- ・今後も 4 項目での集計方法は変更されないと考えられ、KPI としては、長期欠席のう
ち、「不登校 C」と「その他 D」の合算をもって、不登校率の算出をする方法に変更
する。
- ・令和 5 年度の目標値については、5 年間で 0.3% (0.06%/年×5 年) の低減を目指
しているため、平成 30 年度の実績値の△0.3%としている。